

令和5年度 事業報告

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟

1. JBCF ロードシリーズ

令和5年は新型コロナウイルスの影響が底を打ち回復の一年になると期待したが登録者数は戻らず、厳しい一年となった。その中で明るい兆しは10代の登録者数が約100名増えており、世代交代が始まっている。次世代を担う選手たちがロードレースを走る場としてJBCFを選択している。また自治体等からの開催要望が増えており、自転車競技を通じて人と地域に貢献する理念が実を結び始めた。初開催の大会は初の鹿児島県で開催となった「鹿屋・肝付ロードレース」、「志布志クリテリウム」をはじめ、「袋井掛川ロードレース」、久しぶりの長野県での開催となった「おんたけタイムトライアル」、「おんたけヒルクライム」、「信州ながわまちタイムトライアル」「信州ながわまちチームタイムトライアル」、「しものせきクリテリウム」、「新城クリテリウム」の9レース。特に普及大会を増えたことは、自転車競技への理解が広がっていると考えております。

(1) Jプロツアー

15チーム①シマノレーシング、②KINAN Racing Team、③Team BRIDGESTONE Cycling、④マトリックスパワータグ、⑤愛三工業レーシングチーム、⑥群馬グリフィンレーシングチーム、⑦弱虫ペダルサイクリングチーム、⑧CIEL BLEU KANOYA、⑨イナーメ信濃山形、⑩アブニールサイクリング山梨、⑪備後しまなみ eNShare、⑫Bellmare Racing Team、⑬稲城 FIETS クラスアクト、⑭Bryton Racing Team に、大学チーム初の京都産業大学加盟しました。

9ラウンド、17レースを開催し、初開催はJPT初の九州開催となった「鹿屋・肝付ロードレース」、「志布志クリテリウム」、「袋井掛川ロードレース」。連覇中のマトリックスパワータグを破り年間総合優勝を奪い返したのはシマノレーシング。年間個人総合優勝は安定した強さを発揮し、後半は優勝を重ねた中井唯晶選手（シマノレーシング）。個人チームともにシマノレーシングが獲得しました。

(2) Jエリートツアー

41 レースの計画であったが、台風の影響による交通機関の麻痺より日本 CSC ロードレース DAY1 が中止となり、40 レースが開催された。個人総合優勝は日本一有名なアマチュアレーサー高岡亮寛選手（Roppongi Express）が獲得しました。

(3) Jフェミニンツアー

36 レースが開催され、個人総合優勝は大堀博美選手（MOPS）が獲得しました

(4) Jユースツアー

31 レースが開催され個人総合優勝は Y1 (U17) では平山雷斗選手(中部大学第一高等学校)が、Y2 (U15) では飯干智章選手 (VC FUKUOKA DEVELOPMENT TEAM) が獲得しました。

(5) Jマスターズツアー

33 レースを開催。個人総合優勝は SANDU Inut 選手 (LT United Cycling Team) が獲得しました。

(6) 一般大会

「伊吹山ドライブウェイヒルクライム」、「きらら浜クリテリウム」、「椿ヶ鼻ヒルクラム」、「大星山ヒルクラム」、「セオフェス」を実施。

※ 各大会の日程は「2023JBCF Road & Track Series レース開催スケジュール」参照

2. JBCFトラックシリーズ

- ① 6月25日「第57回 JBCF 西日本トラック」(岸和田競輪場)
- ② 7月29-30日「第54回 JBCF 東日本トラック」(松本市美鈴湖自転車競技場)
- ③ 10月7-8日「第54回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ」(西武園自転車競技場)

上記3大会を開催した。③は西武園競輪場で東京都自転車競技連盟の協力で開催

3. 加盟登録状況

当年度の加盟登録状況は 279 チーム、1,961 選手。前年比はチーム 100%、選手 96%となりましたが、10代の登録者が増えている明るい兆しがあります。今後は開催地と連携し、より魅力ある大会運営を実現していくことで、当面の目標である「加盟登録者 3,000 名」を実現したいと考えております。

大会参加者数は延べ 9,185 人 (前年比 112%) となりました。大会数が増えたことと併せてヘビーユーザーが戻り一人当たりの参加レース数が増えていると考えられます。

4. 競輪公益資金補助事業

競輪の補助金を受けて、令和5年度の下記事業を行いました。本事業の実施により、全国組織の連盟として、幅広い競技者に向けて日本各地で大会を開催し、日頃の修練の成果を示す場を提供することで競技力の向上を目指し、一般社会の自転車競技に対する正しい知識と理解を深め、自転車競技の進歩を即し普及促進を図りました。また、競技団体として、安全安心な大会運営やより効果的な広報活動を求められること、インフレによる資材、輸送費をはじめとしたあらゆる経費が嵩む中、当補助金の役割は大きく、また、競輪補助事業をもっと広める活動にも微力ながら注力をしていきたいと考えております。

- ① 4月15-16日 第57回JBCF 西日本ロードクラシック播磨中央公園大会(播磨中央公園)
- ② 4月29-30日 第57回JBCF 東日本ロードクラシック群馬大会(群馬サイクルスポーツセンター)
- ③ 6月25日 第57回JBCF 西日本トラック(岸和田競輪場)
- ④ 7月15日 第3回JBCF 石川クリテリウム(福島県石川町)
- ⑤ 7月16日 第21回JBCF 石川ロードレース(福島県石川町)
- ⑥ 7月29-30日 第54回JBCF 東日本トラック(松本市美鈴湖競技場)
- ⑦ 9月17日 第3回南魚沼クリテリウム(新潟県南魚沼市)
- ⑧ 9月18日 第57回JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ(新潟県南魚沼市)
- ⑨ 10月7-8日 第54回JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ(西武園競輪場)

5. 講習会

1月21日、2月4日、2月18日、3月11日、3月18日に「JCF公認チーム・アテンダント講習会／アンチドーピング講習会」を開催しました。Zoom(ウェブ会議サービス)利用によるオンラインでの実施となり、受講者数は各回60名程度。5回の講習会を通じて合計で約300名のアテンダント登録者が生まれ、また、この開催ノウハウにより、今後、全国からの参加がしやすくなることから、自転車競技の普及に大いに寄与することができ、非常に有意義であったと考えております。

6. 公式ガイドブック

当年は、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から作成しませんでした。

7. 年間アワード

昨年はシマノの協力を得て大阪市のシマノスクエアで開催したが、今年はJプロツアー最終戦のかすみがうら大会で全てのカテゴリーを行いました。

8. 協賛

昨年から加わったガチンコサイクルTVによるJプロツアーへの賞金は継続。令和5年度オフィシャルパートナーはシマノセールス株式会社、パナソニックサイクルテック株式

会社、株式会社あさひ、一般社団法人自転車協会、株式会社パールイズミ、弱虫ペダル、ガチンコサイクル TV、株式会社オージーケーカブトの 8 社、サイクルアクティブプログラムとして、株式会社 NIPPO、マヴィックジャパン株式会社、井上ゴム工業株式会社、LAP CLIP（株式会社マトリックス）、J SPORTS、PR TIME、PUPURU（株式会社プルインターナショナル）、POWER BAR（有限会社パワースポーツ）、LEOMO、メルセデスベンツジャパンの 10 社、合計 18 社から、ご協賛いただきました。

9. 広報

J SPORTS（株式会社ジェイ・スポーツ）、LAP CLIP（株式会社マトリックス）に広報活動の協力を頂きました。

J SPORTS 番組内にて、J プロツアールのレースリザルトを放映。日本のサイクルロードレースファンに対して、広く J プロツアールの映像を届けることができました。

LAP CLIP は本年も JPT 開催大会全戦において協力いただき、各クラスタのラップタイムや順位を速報として公開。参加者やファンにとっても、大会役員や運営サイドにとっても、リアルタイムの計測情報は、新たな観戦の魅力創出とともに、大変重要な情報となっています。

開催した J プロツアールレースをガチンコサイクル TV でライブ配信。より多くのファンに映像という形でレースの模様を伝えることができただけでなく、YouTube コメント欄や SNS におけるファン同士の活発なコミュニケーションのきっかけを作ることができました。ガチンコサイクル TV はレース以外にも J プロツアールチームや選手の PR の場としてイベントを開催するなど、YouTube 配信だけでなく、リアルの間でも選手とファンとの交流ができました。

昨年引き続き YouTube チャンネルで J プロツアールのダイジェストを配信しました。

以上